

ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.37

2017年7月3日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西幸川 895-7
レジダンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail:hginfo@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



三井教授による車いす陸上に関する講義



記録測定の様子



競技会での立位(義足)競技の様子



競技会での車いす競技の様子

「共生型スポーツの普及支援事業」

平成 28 年度戦略的 二国間国際貢献事業 (スポーツ・フォー・トゥモロー)

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

ハート・オブ・ゴールドは 2017 年 1 月から 3 月に、スポーツ・フォー・トゥモロー事業の一環として日本スポーツ振興センターから再委託を受け、カンボジアパラリンピック委員会と協力して障がい者陸上発展プログラムを実施しました。



競技会の閉会式後の集合写真

1 月 30 日、31 日、2 月 1 日には日本パラ陸上競技連盟会長で日本福祉大学の三井利仁教授と日本大学の近藤克之講師を招聘し、立位と車いすそれぞれのトレーニング・ワークショップを実施しました。専門的な技術指導を受けたことがないコーチや選手にとっては、これまでの練習方法を見直し改善する良い機会となりました。

その後、ワークショップで学んだことを取り入れて各自が練習を重ね、3 月の上旬まで、週 1 回、約 2 時間程度、計 4 回、オープンクラスという形で、障がい者の選手とコーチを対象とした振り返りの時間を持ちました。この中では、ワークショップ

で学んだことを再確認したり、体力測定をしたりして、学びを深めると共に、より効率的な練習ができるようアドバイスをを行いました。

そして、3 月 11 日、12 日の 2 日間に亘り、再び近藤講師を招聘し、カンボジアにおいて初めてとなる障がい者のための短距離の陸上競技会を開催しました。設備や器具が整っていない中、100m、200m、400m、800m の種目を、義手・義足・知的障害・視覚障害のカテゴリーに分かれて実施することができました。出場した障がい者ランナーは、競技志向の人から、陸上を始めたばかりの人までさまざまでしたが、それぞれのレベルに合った形で参加で

きました。ルール の 厳 格 性 や 機 材 の 不 足 な だ の 課 題 も あ り ま し た が、障がい者ランナーが自らの能力を発揮できる場となり、参加者が楽しめる大会となりました。閉会式には教育・青年・スポーツ省のハン・チュオン・ナロン大臣も出席されました。

本プログラムは、JICA の短期青年海外ボランティア隊員である筑波大学の大学院生 2 名と学群生 2 名が、パラリンピック委員会や障がい者陸上連盟、メコン大学と協力して、事業をサポートしてくれました。

今後もこのような大会を継続的に開催するためには、運営能力の向上や資金集めなどが課題になりますが、ハート・オブ・ゴールドは引き続き、より多くの障がい者がスポーツを通じてより良い社会を築いていけるよう事業を進めていく予定です。

* 本事業の動画がご覧になれます。
<https://youtu.be/GYpYm7u0Gf4>

ハート・オブ・ゴールドは、2017 年 10 月 10 日から 20 年目に入ります!

【JICA 草の根技術協力事業】

「カンボジア王国中学校体育科教育指導書作成支援・普及プロジェクト」開始

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

ハート・オブ・ゴールド（以下、HG）は JICA 草の根技術協力事業の委託を受け、2017 年 1 月から、カンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）と協働で中学校体育科教育指導書作成支援・普及プロジェクトを開始しました。

2016 年 12 月に、HG が教育省と共に作成した学習指導要領が教育省に認定され、体育科で教えるべき内容が定まりました。しかし、子どもの頃に徒手体操や簡単なスポーツの授業しか受けておらず、2 年間の教員養成校では学習指導要領とは異なる内容しか学んでいない体育教員が、学習指導要領を読んだだけで内容を理解し体育授業を実践することはできません。学習指導要領に書かれている「態度・知識・技能・協調性」を子ども達が身につけるためには、体育教員が質の高い体育の授業を実施していくことが不可欠であり、そのためには体育教員にとって分かりやすい指導書を作成することが必要になります。

2017 年 2 月には指導書作成を推進する委員会（中央委員会、運営委員会、技術委員会）が結成され、3



ワークショップでのグループワーク

月には、教育省内の国立体育スポーツ研究所（NIPES：教員養成機関）及び学校体育スポーツ局（DPESS：現場教員育成・モニタリング担当）、州教育局の関係者を集め、体育を普及するためのそれぞれの役割を明確にするワークショップを開催しました。

3 月 23 日には、西山が教育省の年次会議に出席し、カンボジアの教育全体の中で体育が担う重要性について発表を行いました。



岡出先生を招いてワークショップ

4 月 19 日から 21 日には、日本体育大学の岡出美則教授を招聘し、指導書の体裁や内容の統一性を図るためにワークショップを開催しました。3 日間のワークショップで、領域・種目間で統一性を保つことや内容の記載方法などを技術委員会がグループワークを通じて自分たちで考えながら確認することができました。

6 月 7 日から 9 日には、NIPES で、約 10 名の教員と 100 名の 2 年生の学生を対象にワークショップを開催しました。NIPES は二年制で、中学・高校の体育教員を養成するカンボジアで唯一の機関です。NIPES で新しい体育を教えられるよう、そして学



NIPES でのワークショップ

生が卒業後に配属される学校で新しい体育を教えることができるようになることを目指しています。

今後の活動としては、9 月までに技術委員会が 7 領域・20 種目【フィジカル・フィットネス（レクリエーション、体力テスト）、リズム運動（クメール体操、エアロビクス、創作ダンス）、伝統スポーツ（ボカタオ、ペタンク）、陸上（走、跳、投）、器械体操（マット、鉄棒、平均台運動）、水泳（水指導、クロール、平泳ぎ）、ボールゲーム（サッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球）】の第 1 稿を作成し、プノンペン市、バタンバン州、スヴァイリエン州において実際に教員に使ってみてもらいます。そのフィードバックを踏まえて修正を加え、11 月の本邦研修を受けて、さらに修正を加えていきながら 2018 年 9 月までの完成を目指します。

ハート・オブ・ゴールドの職員になりました

プロジェクト・アシスタント 米山 遥香



2015 年 4 月から 2 年間にわたって、ハート・オブ・ゴールド（以下、HG）東南アジア事務所でインターンとして活動してきましたが、2017 年 4 月からは職員として採用が決まり、引き続きカンボジアで活動することになりました。

インターン時代には本当に多くの学びがありました。特に小学校体育科教育支援事業ではカンボジア各州を周り、実際に現場で体育の授業を見ました。教師の

ほとんどが小学生だった頃に授業らしい授業を受けていないため、指導することはとても難しいと思います。しかし現場では、ハードルを水道パイプで作ったり、コーンを色紙で作ったりとカンボジアにない道具は工夫し、分からないことは教育省担当官や HG スタッフに積極的に質問するなど、HG がカンボジア教育省と協力して 10 年間プロジェクトを続けてきた甲斐があり、少しずつ体育がカンボジ

アに普及されていると感じました。カンボジア全国への普及はまだ時間がかかると思いますが、これからも見守っていきたいと思っています。また、障がい者スポーツ支援を通して様々な経験をしました。今後も継続的な支援を行っていくためにカンボジア人スタッフや関係者と協力し、日々模索していきたいと思っています。

これまで活動を続けることができたのは応援してくださっている皆様のお陰であると実感しています。この経験を活かしてもっと成長できるようこれからも頑張っていきたいと思っています。今後とも応援よろしくお願いたします。

教育・青年・スポーツ省が独自予算で小学校体育普及のための研修会を実施

カンボジア王国小学校体育科教育支援事業
プロジェクト・マネージャー 手束 耕治

ハート・オブ・ゴールドは2006年からカンボジア教育・青年・スポーツ省と協力して小学校の新しい体育の普及に取り組んできました。その結果、省の内部に人材が育ち、2013年から省の独自予算で講習会を実施、2015年からは指導書を印刷し全国の7000以上の小学校に配布するようになったことは大変すばらしいことだと思います。

講習会は5日間の日程で、内容はこれまでJICA事業で実施してきたものと同じです。最初に、年間計画、学年別計画、時間割、指導案作成の理論と実習、続いて、バスケットボール、器械体操、バレーボール、リズム運動、サッカー、陸上の理論と実

習を小学校低学年と高学年に分けて学びます。

対象者は州および郡の教育局の体育・スポーツ課職員のほか、郡の中からモデルとなるクラスター1校を選抜し、その校長と先生6名（1年から6年まで各1名）です。

教育省の統計（2015-2016）によると、カンボジアには現在、7,085校の小学校があり、すべての小学校は1,264のクラスター（学校群）に属しています。平均すれば、1クラスター当たり5.6校です。1クラスターは中心となるクラスター校と数校の衛星校、分校で構成されています。

教育省は全クラスター1,264の内、

全国の203郡・市・区（165郡、26市、12区）において、それぞれ1校のモデルクラスター校（全203校）を選抜して、まずそこに新体育を普及する計画です。

カンボジアには1都24州ありますが、これまでに年間数回の講習会を実施し、本年6月には首都のプノンペンを除く24州での講習会が完了します。

7000校以上の全小学校に新しい体育を普及させるためにはまだまだ多くの課題が残っています。しかしながら粘り強く着実に取り組み、すべての子どもたちが新しい体育を楽しむ日が来ることを願っています。

小学校の運動会

カンボジア小学校体育科教育支援の補完事業
プロジェクト・オフィサー ケオ・ソチェトラ



2013年から、ハート・オブ・ゴールド（HG）は、カンボジア教育・青年・スポーツ省と共に、以下の3つの目的の運動会を普及しています。

1. 体育教育の成果を発表すること
2. スポーツ文化を生徒楽しむこと
3. 学校と地域の連携を強化すること

2017年4月1日に、シアヌークビルのチアシム小学校の運動会に参

加しました。先生が40人（女性：24人）と生徒が1245人（女子：640人）の小学校です。実は、今年は主導する先生がおらず、前の校長先生も定年になったので、運動会を行う予定はなかったのですが、HGのスタッフとして協力し、地域トレーナー（小学校体育科教育の地域責任教員）を中心として、運動会ができることになりました。生徒達もその両親も運動会を楽しみました。来年も行う予定です。

「開発と平和のためのスポーツ（SDP）」研修に参加しました

プロジェクト・オフィサー ケオ・ソチェトラ

3月4日～8日に東京で、国連SDP事務局とスポーツ庁主催の「SDPプロジェクト管理研修会」が開催され、スポーツを通じた開発事業を実施している海外と日本の団体から14名が参加しました。

私はハート・オブ・ゴールド（HG）がカンボジアで実施してきた体育科教育事業についてビデオを見せながら発表し、グループディスカッションで、HGの事業がなぜ成功したのかと聞かれた際には、カンボジア側担当官、日本人専門家、HGスタッ



フが良い協力関係を作り上げて目標に向かって進んだことを第一に挙げました。また、専門家による講義や参加者によるプロジェクト提案発表会も行われました。SDP関係者と良いネットワークキングができました。

NHK ワールド（国際放送）で放映されました

NHK ワールドの“Side by Side”という海外向けのドキュメンタリー番組で、ハート・オブ・ゴールドの体育科教育支援事業が取り上げられました。日本と現地での取材に基づき、事業関係者へのインタビュー、カンボジアの小学校の運動会、先生や子ども達の変化、中学校事業の指導要領認定式などが盛り込まれた“Field Days”というタイトルの30分番組が、2月8日、9日に、NHK BS1とインターネットで放映されました。

ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

プロジェクト・オフィサー 高島 公美

17名（女子11名、男子6名）の子ども達が、毎日元気に過ごしています。今期もたくさんの方にNCCCにお越し頂きました。

1月は、岡山学芸館高校・清秀中学校の生徒達が、子どもたちに、楽しい時間と支援物資のプレゼントをくださいました。大きいお兄さん・お姉さんとの交流は、大切な思い出として、子ども達の記憶に残っています。

3月には、NCCC卒業生のサオピアが子ども達の髪を切りに来てくれました。長い髪にあこがれるカンボジアの子ども達ですが、サオピアの髪を切る



様子を興味深く眺めていました。

そして、4月からは、藤はなさんが、大学を休学して、シェムリアップ事務所でインターン活動を開始しました。足しげくNCCCに通い、子ども達と触れ合いながら学んでいます。

赴任のご挨拶

高島 公美

2016年12月よりシェムリアップ事務所で勤務しています。日本国内では保育士をしていました。また、さまざまな国で幼児教育や初等教育の支援を行って来ました。NCCCを始め、日本語教育に関わる多くの人達に、本当の自立支援を、微力ではありますが、サポートをしていきたいと考えています。そのためのご助言を、どうぞ、よろしくお願いいたします。

NCCCは、間もなく夏休みに入ります。子ども達は日本からのお客様を心待ちにしながら、日々を過ごしています。

シェムリアップ日本語教室

◆BBU大学 日本語講座

京都民際日本語学校所属 HG 日本語教師 渡邊 格

2015年10月にBBU大学で開講された日本語講座では、大学生だけでなく多くの社会人が熱心に日本語を学んでいます。また、カンボジア人スタッフへの日本語教育の訓練も進められており、岡山学芸館高校への留学経験を持つカン・ナモイさんと王立プノンペン大学日本語学科を卒業したコル・ソティアラさんが日本語教師として教壇に立っています。

シェムリアップはアンコールワットに代表されるカンボジアの一大観光都市で、日本人観光客も多く訪れるため、ホテルのスタッフやタクシードライバー、日本食レストランの従業員といった人たちも授業を受けに来ます。観光客としての日本人を見て、日本人が好きになり、日本語の勉強を始めた学生もいます。さまざまな目標をもって勉強している姿を見て、教える側も頑張らなければという気持ちになります。

クラスは現在、AからEまでの5クラスで、約20名が学んでいます。半数以上が社会人で、時間を見つけては勉強に来ていますが、仕事をしながらでは厳しいようで、午前と午後

のクラスを同時開講するなどの対策も試みましたが、継続が困難な学生も多く見られます。継続しやすいように新しい取り組みを考えていきます。

クラスはすべて初級クラスで、文型、漢字等を始め、クラス活動ではゲームや個々の発表もしています。活動の時間は学生たちもとても楽しそうです。一番長く続いているクラスはAクラスで、1年以上になります。学生は2名だけですが、一生懸命に勉強しています。8月頃に初級が終わり、初中級のクラスに移行します。初中級は、文型中心の初級と違い、会話が中心になり、さらには文化や政治の



ことなど、難しいテーマの会話が増えます。

日本から見学に来られる方々は学生たちには先生以外の日本人と話す機会となり、良い刺激になっています。今年の1月に岡山学芸館高校の学生と交流した際には、日本のことを新たに知ったり、日本の学生達にカンボジアの今を伝えようと一生懸命に日本語をしゃべったり、有意義な時間が過ごせました。

◆チェイ小学校 HG 日本語教室

チェイ小学校の生徒（6名）とNCCCの子ども（7名）が、月曜日から金曜日まで週に5回、1時間の授業を受けています。スライノッチ、ソティアラ、ナモイの3人のカンボジア人日本語教師が交代で教えています。「こどものほんご2」の教科書で文型を勉強したり、簡単な漢字を勉強したり、時々クラス活動などでゲームや発表をしています。かる



たや伝言ゲームなどもしています。活動の時間では生徒たちはとても楽しそうに参加してくれます。

スタディツアーの際に実施している歯科検診ボランティアも3年目となり、これまで通り、NCCCでの歯科治療、チェイ小学校での歯科検診と歯みがき指導を行いました。さらに2016年は、HGデンタル班11名(久保、椋梨、寺浦、伊吹、森山、穂積、佐藤、神谷、中島、石井、上垣)に加えて、スタディツアー参加者(11名)も手伝って下さるということで、みがき残しチェックのための歯垢染色を新たに計画。一般参加の方々はアシスタントとして各教室で子ども達への歯ブラシや手鏡の配付、みがき残しチェックのための歯垢染色剤の配付、紙コップへのうがい用水道水の配給と洗口後汚水の回収、それに検診や歯みがき指導の補助をしてくれました。



屋外検診：4グループ同時進行です

活動の様子を詳しく報告します。

12月2日：午後からNCCCを訪問。歓迎式典後、デンタル班は子ども達の歯科検診と歯みがき指導を行いました。まず、これまで治療した歯の状態と新たにむし歯ができていないかを確認しました。これまでは時間の関係でできていませんでしたが、今回は歯科記録用カメラを持ち込み、歯や歯肉の状態だけでなく、噛み合わせまでを記録することができました。今後の治療計画に役立てたいと思います。グループは予防班と治療班に分かれ、予防班は歯垢染色によるみがき残しチェックと歯みがき指導、フッ素塗布を、治療班は2台のエンジンを使って2つの椅子に分かれ、充填や抜歯処置を行いました。これまでの治療と毎日の歯みがき効果により、新たに治療が必要なむし歯は少なく、抜歯数は年々減少しています。初年度はほとんどの子ども達の抜歯をしたことがウソのようです。



皆真剣に鏡を見ながら歯みがきしています

12月3日：チェイ小学校で幼稚園児96名、小1～小6年生558名、合計654名の歯科検診と歯みがき指導を行いました。約半数の先生が替わっており、昨年同様、まずは先生方に歯科検診の必要性を説き、検診票の見方や取り扱い方について説明しました。歯科検診は屋外で2名一組の4グループに分かれて行いました。カンボジアの子ども達は皆お行儀が良く、検診は順調に進みました。歯みがき指導は、一般参加のボランティアがありましたので、歯垢染色剤を使ってみがき残しを確認してから行うことにしました。自分なりに一度歯みがきした後、みがき残しを染色し、確認してもらって、みがき残し部位をさらにキレイになるまで歯みがきするという方法です。各テーブルには、歯ブラシ以外に、水を入れた紙コップ、廃液用の紙コップ、みがき残し確認のための手鏡を配付。終了後にはその回収が必要になるため、ボランティアの皆さまに協力して頂き、大変スムーズに進められました。日本からノートパソコンとスピーカー、簡易プロジェクターを持ち込み、「歯みがきサンバ」という動画を使って、サンバのリズムと歌に合わせて上下左右と順番にみがいていく歯みがき指導は子ども達に大ウケで、どの教室でもアンコールの希望が出て2回ずつやりました。世界共通、子ども達は映像と音楽が大好きで、皆ノリノリで歯みがきできることが解りました！協力して頂きましたすべてのの方々に感謝申し上げます。

今回の検診結果は以下のようになります。

世界的なむし歯の評価基準になるものにDMFT(1人平均むし歯数)という数値があります。D(未処置う蝕歯；decayed tooth)とM(喪失歯；missing tooth；because of caries)と



模型を使って「歯みがきサンバ」

F(う蝕が原因で処置された歯；filled tooth)の総和を人数で割った数で、要するに1人当たりのむし歯経験値です。幼稚園から小6までの654名中：むし歯のないものは8%、むし歯罹患率は92%。

2015年：幼稚園から小6まで 対象者680人のDMFT = 7.4。

2016年：幼稚園から小6まで 対象者654人のDMFT = 7.1。

一人平均7本以上のむし歯があり、乳歯のむし歯治療はほとんど行われていないことがわかります。2015年の7.4本から2016年は7.1本に減少しており、むし歯予防効果が現れているのでしょうか。

12才時DMFT(永久歯列が完成する12才が世界的比較対象)を見てみると、2015年：6年生4.0、5年生5.6が、2016年：6年生4.3に。2015年に5年生だった子どもは2016年には6年生になっています。その間DMFTは5.6から4.3に減少しており、むし歯予防効果が現れているのでしょうか。

HGデンタル班は2017年も活動する予定です。12月のスタディツアーでボランティア活動をして下さる方を探しています。歯科関係者かどうかは問いません。協力して頂ける方はHGにご連絡下さい。



HG デンタル班 2016

最後に、歯ブラシなどの支援物資を提供して頂いたタカラベルモント(株)、ライオン(株)、SUNSTAR(株)ビーブランドメディコ、サンデンタル(株)、(株)トミヤ、伊藤歯科器材(株)に感謝申し上げます。

第 27 回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン

プロジェクト・アシスタント 米山 遥香

今年も、アンコールワット国際ハーフマラソンで優秀な成績を収めた2名が招待されました。幼少期に誤って脱穀機械に手を入れてしまったために右の肘から下を切断したウク・サンポアスさん（男性・30歳）とポリオにより幼い頃から右の肘から下が麻痺しているヌゴン・ラタナさん（女性・37歳）です。昨年同様、ハート・オブ・ゴールドのスタッフで日本語教師を

しているカン・ナモイさんが通訳として同行し、4月16日に開催された大会に参加しました。サンポアスさんは10マイルの部で1時間22分、ラタナさんは5kmの部で27分05秒と、2名とも無事に完走しました。この経験をカンボジアでも活かして、さらに活躍する選手になって欲しいと思います。



第 37 回篠山 ABC マラソン大会

3月5日、「日本遺産のまち 丹波篠山を走ろう！」をテーマに、大会としては久しぶりの好天候に恵まれて開催されました。

多くの方々が好タイムで完走され

ました（完走者7,000人余）。

今回、HGブースの隣に荷物一時預り所が設置されたお陰で、例年より多くのランナーの方にグッズ販売並びに募金にご協力頂きました。



第 7 回淀川国際ハーフマラソン

3月26日、大阪の淀川河川公園にて「カンボジアの学校に体育用品を送ろう」の支援レースとして開催されました。

スタート時は薄曇りで、ゴール時には小雨になりましたが、まずまずのコンディションでした。スタート

後は、3kmファミリー、10km、ハーフの各参加ランナーに、有森代表の激励声援が鳴り渡っていました。

尚、本年も多くのランナーの方々にグッズ販売並びに募金にご協力頂きました。



2017 年 Arimori Cup

5月21日、北海道むかわ町穂別で、「喜びを力に」を基本コンセプトで開催されました。

快晴の中、4コース（3km, 5km強, 10km, 親子）に道内各地から380人が参加し、3歳児（親子の部）から90歳（5km）までの参加者が、

「くじけず、あきらめず、がんばる」の大会テーマのもと、全員完走。中学生による実行委員が運営に当たる全国でも珍しい手作りの大会です。

尚、HGオリジナルグッズ販売並びに募金活動も実行委員が行いました。



第 33 回みしま西山連峰登山マラソン

5月28日、前日からの雨も、開会式が終わった頃には上がり、さわやかな気候の中で、小・中学生403人を含む過去最高の961人がスタートしました。大会前には、幼稚園から高校生までが、大人と一緒にコースの草取りやゴミ拾いをするそうです。

HG長岡クラブが3年前からこの大会に協力し、チャリティーマラソンとなり、カンボジアの子ども達へ寄附を頂いています。HG長岡クラブはブースを出し、グッズ販売や募金箱を設置。有森代表のチャリティーサイン会も実施しました。



恒例のアンコールウォーキング大会出発の広場に集まっているカンボジアの子ども達100人の前に私は立っている。子ども達は、渡されたばかりの私の縫ったお土産袋を隣同士で比べながら笑顔いっぱい、挨拶しようと立っている私は声を発することが叶わなかった。でも、あんなに喜んでいる子ども達を目にして胸がいっぱいになり、限りない喜びに包まれた。



今から16年前に、子ども達に差し上げるお土産を入れる袋が日本のスーパーで使われている半透明のポリ袋と知り、胸が傷んだ。小さい時から縫物が好きだった私は、子ども達に布袋を渡してあげようと思いついた。手芸店が小学生の給食袋等のために可愛い模様の布地を販売する2月に手芸店を廻って布地を入手した。真夏の暑い日もいとわず百余枚の袋を縫い上げ続けた。

子ども達の喜ぶ笑顔！笑顔！終生忘れない喜びとなった。

高齢をいわず、子ども達からもらう喜びに浸りながら、これからも布袋を縫い続けよう。



3.11 子ども animo プロジェクト 宮野森小学校落成式

宮野森小学校は、津波で全壊した旧野蒜小学校と宮戸小学校が統合された小学校です。「森の学校」をコンセプトに、東北の木材5000本を使って復興の象徴として高台に建てられた校舎で、1月9日に盛大な落成式が執り行われました。有森代表も参加し祝辞を述べました。今後は地域の防災拠点としても活用されることになっています。ハート・オブ・ゴールドは、J S ファウンデーションの支援を受けて、昨年11月に、太陽光街路灯5基を福島クラブの監督のもと、校舎の周囲に設置しました。

東日本会員交流会

4月16日、かすみがうらマラソン終了後、34名が参加し、カンボジアランナー2人と通訳のナモイさんを迎えて交流会を開きました。参加者の自己紹介では、今後HGの活動支援に当たって自分ができることを皆さんがアピールされ、活発で楽しい会となりました。

主な活動報告 (2017 年前半)

- 1/7 岡山学芸館 SGH チーム・カンボジア研修受入 (ジェムリアップ)
- 1/9 宮野森小学校落成式出席 (宮城)
- 1/12-3/20 筑波大学より青年海外協力隊員受入 (プノンペン)
- 1/13 JICA 草の根・中学校体育科教育支援事業開始 (カンボジア)
- 1/22 岡山 ESD フォーラム 2017 出席
- 1/24 岡山学芸館清秀中学校研修受入 (ジェムリアップ)
- 1/30-2/1 障がい者陸上トレーニングワークショップ開催 (プノンペン)
- 2/3,13 スカイプ交流 (NCCC と第三藤田小)
- 3/3-9 平和とスポーツのための国際研修参加 (東京)
- 3/5 篠山 ABC マラソン (兵庫)
- 3/11-12 障がい者陸上短距離競技会開催 (プノンペン)
- 3/23 カンボジア教育省年次総会にて報告 (プノンペン)
- 3/26 淀川国際ハーフマラソン (大阪)
HG 西日本会員交流会 (大阪)
- 4/16 かすみがうらマラソン (茨城・土浦)
HG 東日本会員交流会 (東京)
- 4/23 百間川ふれあいフェスタ (岡山)
- 4/30 アニモ・チャリティバザー (岡山)
- 5/12 アニモの会 (岡山)
- 5/21 Arimori Cup マラソン大会 (北海道・穂別)
- 5/28 みしま西山連峰登山マラソン (新潟・長岡)
- 6/20 HG 総会・理事会・会員交流会 (岡山)

主な活動予定 (2017 年後半) 変更あり

- 7/4 奈良県経済倶楽部・講演
- 9月 HG 長岡クラブ 総会 (新潟)
- 9月 HG 福島クラブ 総会・交流会 (福島)
- 9/24 たまの親子チャリティ in おもちゃ王国 (岡山)
- 11/2 中国地区小学校校長会・代表講演
- 11/13-16 JICA 草の根・中学校体育科教育支援事業関係者本邦研修 (岡山)
- 11/26 富士山マラソン (山梨)
- 11/30-12/4 HG スタディツアー (ジェムリアップ)
- 12/1 アンコールウォーキング (ジェムリアップ)
- 12/3 アンコールワット国際ハーフマラソン (ジェムリアップ)
- 12/23 山陽女子ロードレース (岡山)

西日本会員交流会

3月26日、淀川国際ハーフマラソンの後、グランフロント大阪の「旬穀旬菜」にて31名の会員が参加し開催されました。代表のHG活動報告に続き、久保茂正氏による乾杯から懇親会に入り、自己紹介等、会員同志の交流を深める和やかな会になりました。

